

あーすフェスタ 2017 外国籍県民フォーラム

「多文化共生を考える わたしがはじめるアシタのタブン化」

日時：2017年5月20日（土）14時～16時30分

会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）2階プラザホール

来場者：105名

ファシリテーター：割田直樹（多文化共生マネージャー、NPO 未来をつかむスタディーズ）

ゲストスピーカー：西之原愛子（あーすプラザ外国人教育相談スペイン語相談サポーター）

金玄虎（在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部委員長）

サワドゴ・サイドウ（在日ブルキナファソ人委員会）

盧（ろ）：今日は、あーすフェスタ 2017 にお越しいただき、誠にありがとうございます。

ただ今より、「外国籍県民フォーラム 多文化共生を考える わたしがはじめるアシタのタブン化」を開演いたします。本日の司会を担当します、青年同盟の盧と申します。

飯島：飯島と申します。よろしくお願ひします。ファシリテーターの割田さんです。

割田：割田と申します。よろしくお願ひします。

飯島：ではまず初めに、この全体のあーすフェスタの企画委員長である中村ノーマンさんにご挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

中村：Good afternoon. Thank you very much for coming to this course.

みなさんこんにちは。あーすフェスタかながわ 2017 の企画委員長、カナダ国籍、中村ノーマンと申します。私は、この外国籍県民フォーラム、18 年前に、あーすフェスタができた時に、いろいろな自治体の委員とともにお話をし、そこで、宣言をしたということをおぼえています。それがずっと続いてきて、このフォーラム、イベントの中で、少し「学ぶフォーラム」というのを行ってきました。

あーすフェスタは「多文化共生をみんなで育てる」というイベントです。来て楽しめばいいわけではなく、ここで何か新しいことに気がついて、その新しいことをみんなで、自分の疑問を解消したり、それからこれからの学びにつながることを考える、ということをしてもらって、できれば明日から違う自分になってほしいな、とそのような思ひをずっとしています。

なぜそんなことを言うのかというと、実際は、変わるというのはどう変わって欲しいかということなのですが、この地域には色々な人たちが住んでいて、そして、「住みにくい」と思っている、場合によっては「生きにくい」とまで思っている人もいます。しかし、その「生きにくい人たち」に、突然何かすることはできないので、まずはいろいろな課題があることを多くの人が学ぶことが必要だろうと思ひます。

多文化共生は、みんなが生きやすい社会にならないと、きっと多文化共生の社会とは言わないのだろうと思ひます。今回の企画は、非常に長い時間をかけて企画を検討しました。

非常に難しい・・・「外国人と日本人、一番違うのは在留資格だよ。そういうところから考えていかなきゃいけないよ。」

「あ、でもそれをいろいろつめていくと、その在留資格そのものではなく、もう少し考えていくと、それは制度の課題ですね。でも、制度だけで社会が良くなるわけではないですよ、心という問題がある。」

「あ、心をすごく大事にしたい。」

そういう思いで企画を誘導したこともあります。しかし、最後にはやはり外国人という”言葉”という問題が必ず課題になる。では、この三つのことは複雑に関係し合うのですが、それを今日この場で、いろいろな人に理解してもらいたいなと思いました。

また、テーブルで人数が少ないから不安だという人、きつといると思います。ここは来て頂いた以上最後までいていただきたい。そして、そのテーブルの中でいろいろな議論を重ね、少し”出張”もありますが、このテーブルで会った人、自分が人の話から何に気づく、自分はどんな考えをもともと持っていたかということに気づき、明日からの自分の考えを整理し直す芽が出たらなと思ひ、非常に小さなグループにしてみました。

午前中、副知事にこの準備の状況を見てもらいました。非常に感動されて帰っていただいたので、きつと今日は、いい企画、あの、指揮者が見てもきつといい企画に見えたので、みなさんにとってもきつといい企画になるのではないかと。これは一方的なのですが、そのような思いで企画させてもらっております。それぞれのテーブルで楽しい議論、いろいろな人と出会って、できれば今まで知らなかった人とこれから新しい出会いができれば、それが一番私にとっては嬉しいです。以上、ご挨拶とさせていただきます。どうもよろしくお願いします。

飯島：ノーマンさん、ありがとうございます。私も実は、全然知らなくて、あーすフェスタに最初から関わるのは初めてなのです。今のノーマンさんの挨拶でも、フェスタの重みというのをひしひしと感じております。いかがですか、盧さん？

盧：自分も今回が2回目ですね。こうやって総合司会というすごい（多文化のことを）分かりきった人間が司会をやっているのかなと思っている方もいらっしゃるかなと思うのですが、まだ自分も分からないので、今日はよろしくお願いします。

飯島：この会場に来ていらっしゃるみなさんも、「多文化共生ってなに？」という方から、普段から多文化共生とは何だろうと生活の中で考えていらっしゃる方、さまざまいらっしゃると思うのですが、今回は、どんな方でも自分の身に照らして、自分の生活の中で異なる人と生きるとはどのようなことをしてるのかな、では、外国の人だったら、よりどうすればコミュニケーションをうまくとれるのかなというのを、ご自身の身に照らして考えていただければと思います。そして、時間がこれから2時間半あります。一番大事にしているのは、このみなさんが考えていただくということなので、その時間が1時間ございます。その1時間に向けて、これからクイズ、それからあちら3人いらっしゃるゲストスピーカーによるトークを行なっていきますので、どうぞよろしくお付き合いお願いいたします。

盧：今、飯島さんが言った「多文化共生」という言葉がございます。いらっしゃる方で「多文化共生ってなに？」と思う方もいらっしゃるかと思います。今から、今、神奈川で多文化の実態について少し知っていこうかな、まず、そういう勉強をしていこうかなと思っております。

飯島：いくつか、クイズを用意してみました。お手元のプログラムに答えの欄がございますので、プログラムの答え欄、それから、その隣にビックリマークが小さく3つありますが、それは知らなかった時に「あ、これビックリ3つ分くらい」、または「あ、これはもう知ってたからビックリ書かなくていいや」、とそのように使って頂いて、のちのちテーブルのみなさんで意見交換をするきっかけにさせていただけたらと思います。

それから、机の上に模造紙があります。それはみなさんご自由にメモとしてお使いください。それからもう一つ、お写真のことを先に伝えさせていただきます。主催者側の方で、お写真を撮らせていただきます。主には記録用ですが、広報に使う場合もございますので、もしそれがお嫌だなという方、今この場でちょっと手を上げておいていただいたら、写らないように配慮します。大丈夫ですか？では、さっそくクイズの方に移らせていただきます。

盧：はい。では、いきます。「日本に住む外国人の数は、一日に横浜駅で電車を使う人の延べ数と、ほとんど同じである。」マルかバツか。もう一回読みます。「日本に住む外国人の数は、一日に横浜駅で電車を使う人の延べ数と、ほとんど同じである。」

飯島：直感的でいいですよ。パパッとお手元の紙に書いてみてください。

盧：では、正解を言います。正解はマル！

約 223 万人～224 万人です。つまり、横浜駅のあの景色が一日全部外国人だと想像したら、それが、日本に住んでいる外国人の数になるわけです。

飯島：さあ、いかがでした？続いて、第二問いきますね。第二問。「日本人と結婚した外国人は、日本の国籍になることができる。」マルかバツか。もう一度言いますね。「日本人と結婚すると、日本国籍になることができる」マルかバツか。お手元に書いてみてください。いいですか？

飯島：正解は、バツ、でした。どうでした？びっくりしたらビックリマーク書いてくださいね。結婚しても日本人にはなりません。日本で暮らすには、日本国籍が必要になるので、日本国籍を持っていない人は、在留資格というものを持っている必要があります。意外と知られていないですよ。

盧：はい。3つ目いきます。「神奈川県ホームページは、10ヶ国語で情報を発信している。」マルかバツか。

では、答えいきます。正解は、マルです。大切な情報が英語、朝鮮韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、ラオス語、カンボジア語に翻訳されているほか、翻訳機能でより多い言語に翻訳可能です。あと、「こんにちは神奈川」という、年に3回の情報誌も6ヶ国語で発信しています。行政のことはわかりにくいので、自分の言葉で書いてみると、すごく助かりますね。

飯島：さていきましょうか。第4問。「神奈川県にある外国人学校は、10校より多い。」マルかバツか。「神奈川県外国人学校は、10校より多い。」マルかバツか。ちなみに、日本の公立は、小学校850校くらい、中学校400校あります。参考までに。

飯島：いいですか。はい、正解は、マル、でした。結構納得された感じですね。

盧：「知ってたよ」みたいな。

飯島：「知ってたよ」みたいな。自分はけっこうビックリ。はい、県が認める各種学校としてあるのが11校。インターナショナルスクール系が4つ、朝鮮学校が5つ、それから中華系の学校が2つあります。

盧：では、最後のクイズに行きましょうか。はい、では最後のクイズです。「2015生まれの子ども30人に1人以上が、外国につながる子どもでもある。」マルかバツか。もう一回言います。「2015生まれの子ども30人に1人以上が、外国につながる子どもでもある。」マルかバツか。

盧：はい、大丈夫でしょうか。では、正解を言います。正解は、マルです。

22人に1人が、親のどちらかが外国籍の子どもです。文化の壁も、心の壁も乗り越えて結婚したカップルの多文化な子どもたちは、教室に1人以上いると考えていいのです。

5つのクイズがありました。どうだったでしょうか？新しい、驚きの発見はあったでしょうか。

飯島：驚きのニヤリが出てますね。私、結構、外国人学校びっくりしましたが、11校というのは少なくないですか？

盧：少なく、感じますね、結構。でも、他のところと比べると神奈川はこれでも外国人学校が多い方なのです。

飯島：全然知りませんでした・・・はい。こうやって、びっくりすると、他の人と話したらより楽しいかと思うので、このびっくりを共有する、そしてテーブルで自己紹介をしていただく時間を設けたいと思いますが、ここでテーブルトークを進行していただく、ファシリテーターとして、割田直樹さんをお呼びしているので、あらためてご紹介いたします。割田さんは、私にとって、多文化を考える先輩。場をつなぐ先輩だと思っておりますので、今日はよろしくお願ひします。

割田：はい、よろしくお願ひします。（拍手）

みなさん、改めましてこんにちは。ファシリテーターの割田直樹と申します。本日、私、群馬県の高崎市から参りました。以前ですね、4年前まで私、横浜市民でございました。こちらのあーすぷらざのスタッフとして働いておりました。あーすフェスタに関わるのも、4年ぶり。本当に本日は非常に意識が高いみなさんと話ができることを非常に楽しみにして参りました。

私はやはり群馬に行ってから、改めて、神奈川県が非常に外国人に対しての意識が高いと実感しております。群馬県も、外国人が多いです。有名なところで大泉町なんていうところがありますが、町の町民の中の6人に1人が外国人というように非常に外国人率が高いところなのですが、そういうところと比べてみても、やはり神奈川県の多文化共生の施策や、働き方、そういう（意識が）非常に高いというように感じております。そんな中、みなさんとまた、関わる事ができたこと、また、意識の高いみなさんとお話できることを非常に楽しみにしております。最後まで、よろしくお願ひいたします。

（拍手）

割田：はい、それではですね、自己紹介ですね。自己紹介をさせていただきます。すみません、グループの中で今、お一人という方いらっしゃいますか？

飯島：そうですね、お一人の方、お引越しして、仲間を見つけましょう。後ろにいらっしゃる方、クイズで色々感じたこともあるでしょうし、よかったですね。

割田：よかったです是非参加していただけたらと思います。はい、移動ありがとうございます。はい、ではそうしましたら、今、みなさん、各グループに3人、ないし4人いらっしゃるかと思います。そのグループの中で自己紹介をしていただきたいと思います。10分、枠を設けます。10分で、ひとり1分くらい自己紹介していただいて、その後5分くらい、このクイズの振り返り。みなさん、ビックリマークつけましたね。新しく発見したこと、新たに思ったこと、学んだこと、そのようなことをぜひ共有していただけたらなと思います。準備はよろしいでしょうか？

自己紹介も、ただ単に名前だけ、あとはできれば、どのような立場でいらっしゃるのか、どのような考えを持っているのか、ということも含めてお話ししていただけたらと思います。みなさん、非常に多文化共生に免疫がない、多文化共生に関心が高いということもあるので、たぶん相手を知らうという意欲が非常に強いと思います。ですので、積極的な自己紹介というものもおかしいですが、そのような雰囲気ですていただけたらと思います。はい、お待たせしました。では今から10分間、自己紹介をどうぞ！

(各テーブルで 10 分間の自己紹介)

飯島：さあさあ、みなさん盛り上がっていますね。もっともっと話をして欲しいのですが、少し一旦ここでお終いにして、次はゲストスピーカーの人にお話をいただけたらと思います。では、最初のゲストスピーカーに座っていただきました。ご紹介します。

盧：一旦中断して、はい。よろしく申し上げます。

飯島：はい、ありがとうございます。では、あーすぷらご教育相談、スペイン語相談サポーターの西之原愛子さんにお話いただきます。よろしく申し上げます。

西之原：ありがとうございます。まず、私は 13 歳の時に日本に来て、全然日本語ができなかったので、そこで初めて言葉の壁を感じました。すごく不安で、とても大変でした。もう初めて教室に入った時は泣きそうで、辞書だけ持って入って、何もわからなかったのです。そして、90 年くらいの時だったので、みんなから外国人の存在が少ない時期だったので、珍しいものだとよく見られて、不安感が本当に多かったです。でもその中で、親切に優しく受け止めてくれていた先生や友達、仲間がいっぱいいてくれて、すぐ日本語を覚えることができました。

本当にみんなすごく一生懸命、ジェスチャーとか辞書をみんな引きながら、彼達はスペイン語を少し覚えて、私は日本語を教えてもらったり。その時は、言葉の大切さが、こんなに困っている、自分も困っていたので、住んでいる場所の言葉を話すというのは大事なことだと思いました。

そして、長く通訳を今しているのですが、通訳をしている中で、色々な経験、本当に色々な方とお付き合いで、困っているところを見ているのですが、お産や、日常生活での困りや、最初は通訳という形は、言葉を訳せばいいという感覚だったのですが、時間が経つにつれ、通訳というのは言葉を通訳するのではなくて、相手の気持ちを伝えることが大事だということがどんどん分かって、通訳をするときも、その人の立場に立って、どういうことを求めているのかよく考えて、できる限りのことをするようにしています。

本当に、あらゆる場面で外国の方が困っているところ、自分の実家や家族などを置いて、本当にいろいろな、みんなそれぞれ理由が違うのですが、優しく受け止めることでその人の心、広くして、文化をお互いに尊重しながらわかり合って一緒に住むことができるのではないかと思います。せっかく、私の場合は二つの文化、途中までペルーの文化で、途中から日本の文化が入って、二つの文化の中でいいものを拾って、二つを利用してできるだけいいものを使うにはしているのですが、日本のいいこと、時間を守ることや、衛生は本当にいいこと、たくさんあります。そして、ペルーのあたたかいところ、みんな元気に明るいところなどを取るようにして、周りの私みたいに困った子ども達などを支援したい。

私のように、孤独な、できるだけ切ない気持ちがない気持ちで育ってくれるようにという形でいろいろな支援をしているのですが、自分の子供にも、彼らは日本生まれで、結構日本の学校に通っているので影響がすごく入っています。ですが、それでも少しペルーの話もして、少しだけでもペルーを好きになって欲しいのです。ペルーの文化も、彼らの心の中に残るようにしています。

世界は狭いのではなく、自分の考えで広げると視野がすごく広がります、ということを知っていただきたいです。みんなが親切にすることで、相手の方も、日本語を覚えることとか、関心を持つようになるので、住み心地もすごく良くなると思います。私は、最初は家族は出稼ぎという形で来ていたので、1年 2年したら帰るといった形だったのですが、なかなか気持ちが切り替えができなくて、結局日々が過ぎて、日本に永住することになりました。最初はやはり「帰りたい、帰りたい」という辛い気持ちでいっぱいだったのですが、そのうち、日本にどんどん慣れて、永住すると決まった時に、気持ちを切り替えました。日本の文化も受け入れ、自分のペルー

の文化も残ったままで、できるだけ日本と共同で生活ができるように、いろいろと工夫しながらしていました。

本当に、いい人に、いい方ばかりに恵まれて、幸せで、今までの辛かったことも乗り越えたと思います。これからも、今、子ども達、特に今、多文化共生の子ども達が、これから上手にその多文化の理想に近づくために、乗り越えるために協力し続けたいと思っています。

みなさんも、他の方、文化などが違って、人間は同じ人間、心を持って文化や、価値観が少し違うだけですが、それでも、良いか悪いかではなくて、お互いに認め合うというか、認め合ったことで、幸せに暮らせると思います。どうぞみんなも、これから新しく多文化共生についても少し考えて、みんなでもっと、よりよい生活が送れるように協力をお願いします。ありがとうございました。

(拍手)

飯島：愛子さん、ありがとうございました。今のお話の中で、「共に生きる」というのを考える時に、違う文化で生きる、というように、言葉の問題や気持ちの問題などについての話が聞けたのかなと思います。ありがとうございました。

では次に、金玄虎（きむ・ひよの）さん、よろしくお願いします。金玄虎さんは、在日本朝鮮青年同盟神奈川県本部委員長をされています。

金：みなさん。アニョハセヨ。こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、在日本朝鮮青年同盟委員長をしております金玄虎と申します。私は日本で生まれ育った在日朝鮮人3世です。ですので、外国から日本にやってきたわけではないです。その中で、青年同盟という活動を通じて、日本のこと、自分がどういう人間なのか、また多文化共生とはなんなのかということをお今日は話したいと思います。

簡単に青年同盟について説明させていただきますと、18歳～30歳くらいまでの在日コリアンの青年たちと、僕たちのコミュニティを広げていく、自分の民族を知ったり文化を知ったり、また日本の学校に通う在日コリアンを集めて言葉を習ったり、そのような活動を通じて、自分がどういう存在なのかというのを探求していく、そのような活動をしております。

今回この席で話すという時に、海外から来たわけではないので、自分がどういう人間なのかというのを少しまとめてみました。なぜ自分が日本にいるのか、というところで。この地図を見ていただくと、祖父と祖母が生きる道を探して日本へ渡って来たのですが、その祖父の故郷が、この矢印にある慶尚南道 昌寧郡 霊山面 月玲里（キョンサンナムド チャンニョングン リョンサンミョン ウォルリョンリ）というところから、日本へ渡って来たということになります。ここは近いところでよく聞くのが釜山というところなのですが、釜山からその直線上に対島、福岡とつながっているのですが、この日本を渡る時に玄界灘というところがあります。この玄界灘の玄の字をとって、朝鮮人が日本に渡って来たという歴史をしっかりとって、また強い人間になれ、と、「玄界灘の虎になれ」と、このかっこいい名前を親がつけてくれました。

この祖父と家族が日本にやって来て、僕の父が生まれ、そして日本で僕が生まれたということです。東京で生まれて、厚木の丹沢の麓の七沢というところで育ちました。まわりは僕以外に在日朝鮮人という方は全然いませんでした。近所の保育園に通いながら、近所の日本の方との家族ぐるみの付き合いがありました。小学校1年生の歳になって、町田にある西東京朝鮮第2初中級学校という、朝鮮学校に通います。そこで初めて朝鮮民族について知り、またその民族意識を培ってまいりました。そこは中学までですので、高校は神奈川県横浜市にある神奈川朝鮮中高級学校、そこに3年間通いまして、現在青年同盟という活動をしているきっかけが、その朝鮮中高級学校にありました。

当時日本学校に通う在日コリアンの学生たちを対象とした2泊3日であるキャンプのようなサマースクールというものがあるのですが、そのスタッフとして携わって、その光景を見た時に、「ああ、この活動をしている青年同盟の活動家になりたいな」と思いまして、今に至るといって経緯を持っています。

少し早口すぎて申し訳ないですが、まとめたときに、では自分はこの日本にいて、どのような存在なのか、と考えた時に、故郷は今言った韓国の慶尚南道ですね、祖父の故郷、そして僕の故郷である慶尚南道であると思うと同時に、朝鮮民主主義人民共和国というものを祖国として思い、また厚木の七沢も幼少期から育った大事な場所、かけがえのない場所だと思っています。また、現在、極度に緊張化している朝鮮半島、ここにいる同じ民族同士祖国統一を実現させたいと考えている在日朝鮮人です、と説明できるのではないかと思います。

それで、今回テーマが3つあると思います。言葉、制度、心というところでですね、今、神奈川県外国人学校に対して制度の部分で思うことを、今日はお話ししたいと思います。

神奈川県の外国人学校、この各種学校の認可を受けている学校がこのようにあります。クイズでも、10校以上ある、11校あるということになりますし、各種学校の認可を得ていない、得られていない外国人学校もあります。このように外国人学校が多くある中に、外国籍県民神奈川県会議というもので、この外国人学校に関して、神奈川県に対する提言というのがまとまっているということを、今回をきっかけに資料を読みました。

そうしたら、第5期提言「外国人学校の助成を充実させる」や、第7期提言9「外国人学校へのサポート」などが提言されているということを知りました¹。それを見ながら、現在の神奈川県の外国人学校に対する問題点がなんなのか、と考えるに至りました。

まず各種学校に認可されていない学校をみるときに、認可されていないということは、県からの助成金というものがまったくありません。通学をするときの定期券の割引、学割なども適用されない。ということは、財政状況によってそこに通う子どもたちの教育を受ける権利がなくなっていく、奪われていくというように言えるのではないのでしょうか。

また、各種学校の認可がされている学校でも、学校に対する補助金というものが、保護者に対する補助金に切り替わって、実質、学校の運営が厳しくなっていく。そのために授業料の値上げをせざるを得ない。そのような現状もあるということ。また、僕の母校の朝鮮学校に関しては、現在一切の補助金が打ち切られているということです。また、政治情勢に関連して「県民の理解が得られない」と、県民である保護者になんの説明もなしに補助金が打ち切られた、このような現状があるということです。

このような問題点を今回調べるに当たって考えることができましたし、スライドにも出ているようにいろんな国際的な条約にも反していると。また、神奈川県が目指す多文化共生にも反しているのではないかと。そのように私は思います。

そういったときに、現在の神奈川の多文化共生事業ということに個人的には疑問を持たざるを得ない、そのような気持ちを持っているとともに、自分の中で「多文化共生ってなんなんだろう？」と思った時に、事前準備をする過程で総合司会の方と話をしている過程で、昔のエピソードの一つ思い出したので話してみたいと思います。

小さい頃、厚木の山奥で育ったのですが、近所の保育園に通っていました。そこで赤ちゃんの頃から預けられていたので、ハヤト、という友達ことができました。そのハヤトとはよく学校が終わっても近所で遊んだりしていました。僕は遊ぶとしたら朝鮮学校の友達と遊ぶ時もあるし、地元の友達のハヤトと遊んだりもしました。その中で、「あ、これ、朝鮮学校の友達と地元の友達と

¹◇外国籍県民かながわ会議における外国人学校に関する提言として、金さんのスライドでは、以下のものが指摘されている。

—第5期最終報告

提言2「外国人学校への助成を充実させる」

提言4「無認可の外国人学校に対する認可基準の緩和について」

—第6期最終報告

提言4「外国人学校への助成及び各種学校認可基準の緩和について」

—第7期最終報告

提言9「外国人学校へのサポートについて」

—第8期最終報告

提言6「外国人学校のサポート充実」

3人で遊んだらこれが一番楽しいぞ」と思って誘いました。で、その朝鮮学校の友達を A としましょう。会った時に、自己紹介をするわけです。そして、遊んで、解散をした。その後にハヤトに「どうだった？」という話をしたら「ひよのっていう名前は普通なんだけど、（朝鮮学校の友達）A というのは、なにかこう名前を聞いた時に違和感を感じる」というようなことを言っていました。

”ハヤト”と”ひよの”というのは、”ハヤト”と”ひよの”でしかなくて、”ハヤト”と”A”は”ハヤト”と”外国人の友達 A”というのが成り立つのではないかと考えた時に、”ハヤト”と”ひよの”という形が、多文化共生につながる形になってくるのではないかと、今回、話すことを考えている時に思うようになりました。子どもですので、相手の存在がどのようなルーツがあるのかというのがわかっていたかは分かりませんが、相手の存在を知りつつ、自然と横にいる、そのような社会を作っていければいいのではないかと。で、またそれを作っていくためには、やはり知るべきだと、知るということは、制度のことについて、学ぶ権利が保証されるべきではないか、このように思います。

僕の知っている格言に、「自分の地にしっかりと足をつけ、目は世界を向く」そのような言葉があります。多文化というのは、僕のようなルーツがあるように、多文化、これはいろいろなルーツがあるということではないのか、そのように思いました。このルーツを知るための教育がしっかりと保証されるべきであり、その教育が保証されることによって、自分が自分であることを認められる。それは自分が自分であるということに自信を持つということ。自信を持つということは社会で自分の存在を確立できる。そのように思います。そうやって初めて人間は他のことを知るのではないかと、思うのです。自分のルーツを知って、他の文化を知って、それが多文化共生につながる第一歩になるのではないかと。ということはこの準備する期間に思いました。

格言で「自分の地にしっかりと足をつけ」、これは、自分のルーツを知る、歴史を知る。そして横の人、まわりの人、世界、外国の人、そういった、眼を持つことができることによって多文化共生を実現していくのではないかと、そのように思います。

まずは知ることが、ここにいる皆さんが明日、携帯電話でなにか検索することだけでも一つ行動になるのではないかと、思います。以上です。ありがとうございました。

飯島：ありがとうございました。熱く語っていただきました。多文化共生といっても、「一緒に生きようワイ」という側面だけではなくて、愛子さんの話もそうですが、違う文化で生きざるを得なくなったという、その理由のところを考えなくてはいけないのかなとか、それを考えるためにも制度というものがあるかどうかというのが、自分たちの生活とか文化に直結していくのだなということを感じました。ありがとうございました。

では、続きまして、サイさん、サワドゴ・サイドウさんにお話をいただきたいと、思います。在日ブルキナファソ人委員会のサワドゴ・サイドウさんです。よろしくお願ひします。

サワドゴ：ありがとうございます。みなさん、こんにちは。自己紹介はもういらぬかと思ひますが、サワドゴ・サイドウと申します。西アフリカのブルキナファソという国から参りました。今日、みなさんにしたい話は特にはないのですが、自分が、日本に来てから色々なことを見ながら、「ああ、こういうことあったんだ、知らなかった」という話をしたいです。

まず、ブルキナファソという国と似てる日本の話と、ブルキナファソ人と違っている日本人の話、二つしたいと思ひます。

ブルキナファソ国と似てる日本国という話は、顔からいうのではなく、意味としては、自分が勝手に見出したことです。ブルキナファソで、どうしてこのような名前をつけたのですか、という意味を聞いたら、答えてくれます。日本の場合も例えば子どもに、「日本国は何でこの国に日本という名前をつけたのですか」と聞いたら多分歴史もあると思ひます。しかし、それがどうかすると日本と似てることがあるのです。そのあと、名前です。日本人の名前とブルキナファソの人、私の名前も、全く同じです。

ただ、意味が少し違ひます。例えばサワドゴと申したら、「空と土を治める人」です。それには、昔から言い伝えがあるという話をするともっと深いと思ひますが、そういう歴史があり、意味もしっかりとあります。例えば、色々あると思ひますが、日本に来た時に、例えば「森さ

ん」や「川内さん」や「山本さん」と聞いた時に、ブルキナファソと同じ名前なのです。ですので、意味を聞いたら、「それは何の意味なんですか？」と学校に通っていた時も、なかなか答えが出てこないのです。ブルキナファソ人の普通の名前や日本人の苗字、たとえばブルキナファソだったら、森といたら、家族の名前ではなくて、自分の名前です。

森さんといったら、たとえばお母さんが森の中に、何かを探しに行った時にそこで偶然に子どもを産んでしまった。その子に「森」という名前をつけます。それもあります。あるいは、このお母さんがたとえば結婚して10年経ったのに、子どもがいません。その時にある森に行って、お祈りして、その後子ども産んだ時に、「森」という名前をつけます。例えば、「川内」とか「山本」とかも山の方をお願いして子どもができたとか、あるいは山のそばで偶然に産んだ時ですね。それで人の名前を聞いた時に「山内」、自分で意味を探したら「ああ、あの人は山の近くで生まれたんだ」と思うのです。

いつかお話で、金子さんという方にお会いして、それで「あ、この人はなんかお金に関係があるところで生まれたんですね。もしかして、お父さんかお母さんがすごく金持ちになって、何かそのお金を色々なところに使ったり、そういう昔の感じがあって、金子という名前をつけた」だと、ブルキナファソだったらそういう関係がないと、簡単に名前はつけません。どんな名前でも、聞いたら、それにはしっかり意味がある。なぜその名前をつけたかという、いくつか理由があります。ですので、その辺がブルキナファソと日本は、少し文化が似ていますが、少し違っているところがあります。まず、名前が、そういう名前を持っているのか、しっかりと意味を分かっている方もいらっしゃると思うのですが、その辺、私、今日もし日本のここにいらっしゃる方が、「自分の名前はこうです」「自分の苗字はこうです」「なぜこういう苗字持ってるか」というと・・・その話、すごく気になっています。聞きたいです。それが一つ。

もし、日本人の名前は、そこから考えて、日本人の苗字はそこから考えられてきた、またはそういう話を伝え残して欲しいです。今まで友だちにも聞いたりするのですが、あんまり意味が聞けません。

二つ目の話は、ブルキナファソ人と日本人の文化が近いです。この間、ブルキナファソに行った時に、在ブルキナファソの日本の大使とお話したのですが、自分がブルキナファソに行っている間に、ブルキナファソ人の名前や、すぐに謝ったりすることなど。または人間関係、相手に対して細かいところまで気にしたり、それがすごく似たりしています。その辺が私が日本に来てブルキナファソと日本は少し何か繋がりがあられるかもしれないと思ったのです。

しかし、その繋がりは、もしかして上手に育てないと逆になってしまう。例えば、苗字の代わりに名前を呼んだり、名前の代わりに苗字をつけたりしたことがあったと思います。それは日本で気づいた話なのですが、あとは少し日本で気づいたこと。日本で気になっているということもあるのですが、それは何でしょうか。私、日本に来る前に想像していたのは、日本に着いたら、みんな大きな刀などを持っていて、馬に乗って、サムライ、例えばどこでも馬に乗って、刀を持って走ったりしている人がいると思ったのです。しかし、日本に来て逆にすごく綺麗で、安全なところだと思いました。時間がそろそろと言われているのですが、その話、けっこう面白かったと思うのですが・・・。

飯島：聞きたいですね。

サワドゴ：あと1分だと・・・言われていますが。その、日本に来て安全な国で、平和な国で、刀を持っている人も一回も見たことないです。ではサムライはどうして日本の国に対してサムライとかあるのですか、と。一人くらい、週に一回くらい刀とか持って歩いている人がいてもそれは普通だと思ったからです。でも、そういう危険がなく、すごく安全な国で、楽しかったと思っています。ただ、その中に幸せで、安全な国、平和な国、楽しい国の形を見たのです。なのに、その中にたまに・・・人がストレスですと言います。私、日本に来てからストレスという言葉初めて聞いたのです。ブルキナファソにいた時に、ずっとそれまでストレスという言葉聞いたことがありません。日本に来て初めて私は「ストレスは何ですか？」と思ったのです。それでどうして平和で幸せで何でこの国はストレスということはない、と自分は思っていました。信じていません。多分ストレスと言う人はウソをついていると思います。もし、「ストレスはなんで

すか？」と質問した時に、「どうして日本にストレスがあるんですか？」と説明してくれる人がいたら、できればそれもお願ひします。あと、その意味、何が理由、何が原因でストレスがあるという説明できる人がいれば、あとでそれもお願ひします。ありがとうございました。

飯島：ありがとうございました、サイさん。名前の意味の話も面白かったです。日本にサムライがいるという話も、私、グアテマラにいたのですが、まず、日本人という、刀を持って、紙の家に住んでいる、ドラゴンボールみたいな人たちがいると思われるので、それは違うと思いました。そのようなそもそもわからない、知らないということがあるのだろうと感じました。

盧：はい、では、これより本日のメインイベントに入りたいと思います。今から、テーブルトークに移りたいと思います。じっくり、多文化共生、違いを抱えながら共に生きることはどうしたらできるのだろう、ということについて考えていけたらと思います。マイクはまた、割田さんにバトンタッチしたいと思います。では、よろしくお願ひします。

割田：はい、ありがとうございます。そうしましたら、一時間、たっぷりあります。この一時間を使いまして、先ほどのテーブルトーク1、自己紹介、まだまだ時間が足りないという雰囲気、みなさん非常に和やかに、楽しそうに話をされていたのが非常に印象的でした。同じように、今回のこのお三方に話をさせていただいた内容、また今回のテーマでもある「言葉・制度・心」そのような言葉を軸にして多文化共生、ご自身がどのようなことを考えていらっしゃるか、そのようなことを、遠慮なく、積極的に皆さんと話し合っ、意見をぶつけていただけたらなというふうに考えています。

今回、テーブルトーク2ですが、一時間。時間をまずテーブルトーク1といたしまして25分、この中で今みなさんがいらっしゃるテーブルの中で3人ないし4人の方とお話をさせていただきます。それぞれのテーマに沿った話です。そして、今回、みなさんの各テーブルには、テーブルホストのみなさんに一人ずつ入っていただいています。すみません、ご紹介をしていますが、みなさん、ホストの方、挙手をお願いします。はい、ありがとうございます。この方々がグループの中の進行、私が今回全体の進行をしていきますが、みなさん、ホストの方はグループのファシリテーターをしていただく役割になっていますので、よろしくお願ひします。

その後、まずは25分間、その中で話し合っいただきます。そこにある紙、メモにふんだんに利用していただいて構いません。その後、この間に5分ほど休憩を入れまして、移動をお願いします。そのホストの方以外の方、みなさん、受付でカードをもらっていますか。はい、そのカードの裏を見ていただくと、プラス何かの数字が書いてあると思います。たとえばこちら、5グループの方ですが、少し見せていただけますか？こちらのカード、裏を見ると、プラス1とあります。なので、5、足す、1なので・・・6に移動していただきます。そういうような具合です。いかがでしょうか？ご理解いただけましたか。そうしましたらこちら3番の方、ちょっとお借りします。3番の方、プラス1とあります。なので、4番に移動していただきます。もう少し・・・あ、この方もプラス1・・・。

飯島：ピンクはプラス1です。ピンクの方はプラス1と書いてあるはずですが。そして、青い紙の方は2・・・。

割田：失礼しました。そういうことで。そうしますと、それぞれみなさん、バラバラになっていただきます。バラバラになったグループであらためて、ご自身がいたグループの中でまとまったもの、意見、それぞれあったものを、他のグループに行っ共有してください。その中で元いたグループで持っ行った意見をそこで共有して、新たに発見した、気づいたものを、さらに、3のところで元のグループで持っ帰っ共有してください。おわかりになりましたでしょうか？この作業一時間分・・・はい、質問どうぞ。

(テーブルから質問)

飯島：テーブル20の人のプラス1は、テーブル1番。19の人のプラス2は、テーブル1番。18の人のプラス3も、1番、となります。

割田：そうしましたら、ただいまの時間から、一時間。たっぷりとお話をしていただきたいと思います。先ほど、このお三方にスピーチしていただきました。今のところ、皆さんも質問したいこと、等々、あると思います。私も含め、スタッフも、ゲストスピーカーも巡回いたします。その時に聞きたいことがあったら「ちょっとすいません」「ちょっとこういう質問いいですか」と断っていただけたらお答えできるかと思しますので、そのようにこの一時間使っていきたいかと思ひます。よろしいでしょうか？それでは、ただいまから60分間、みなさん、グループの中でお話をいただきたいと思ひます。

飯島：最初、25分間ですね、今スライドに出ているようなことをお話いただければと思ひます。クイズも含めて、スピーカーの話も含めて、心に残ったこと、疑問に思ったこと、「こんなこと、知らなかったよ」とか、自分の生活に引きつけて、「自分この気持ちわかるかも」とか、そういうことを話していただいたり、心や言葉や制度が壁になるときもあれば、助けになるときの話もあったと思ひるので、そんなことをお互いに話していただいて、「じゃあ自分の生活とどう繋がってるんだな、これからできること、どんなことがあるかな」ということをお話いただければと思ひます。それから、セッション1で25分の後で休憩5分入ります。お手洗い休憩になります。この中は飲食も禁止なので、申し訳ありませんが、お水も、我慢してください。外に出て、お水を飲んでいただく休憩はこの後にございますので、25分、まずはおしゃべりをお楽しみください。では、スタートしてください。

【セッション1：25分のグループトーク】

割田：はい。それではみなさん、それぞれのグループの中で色々な意見が出たかと思ひます。だいたいまとまったかなと感じます。それではみなさん、5分ほど休憩いたします。この休憩を挟んで、移動して、5分後には着席していただけるよう、ご協力をお願いいたします。それでは5分間休憩とさせていただきます。

【休憩】

割田：ではみなさん、着席していただけましたか？みなさん、元に戻るテーブルの番号は覚えていますか？ではみなさん、最初のグループで話合った内容、どのような感想、意見が出ていたか、そういったことをグループの中で共有していただけたらと思ひます。おそらく同じような意見があったら「あ、それでました」という感じでも構いません。元いたグループでは出てこなかったような意見というのを、記憶、または記録していただいて、持ち帰っていただいて、またそれを共有したいなというふうに思っています。みなさん、よろしいでしょうか？ではまた、ホストの方、進行の方よろしくお願ひします。それではこの時間は15分ございますので、55分頃まで、よろしくおねがいたします。

【セッション2：15分のグループトーク】

割田：では、お時間になりましたので、最初のグループに戻っていただきたいと思ひます。

飯島：名残惜しいと思いますが、新たな旅に出てください。新たなではないですね、最初のメンバーのところに戻ってください。また後で積極的に声をかけてみていただけたらと思います。最初の場所に戻ったら仲間がいなくなっていた、そのような方はいらっしゃらないですか。

割田：はい、よろしいでしょうか。そうしましたら、あと残りの時間を使いまして、どのような話をされていたか、みなさんメンバーと共有していただけたらと思います。気づいた点、違い、そういったものがあれば共有していただけたらと思います。では、ホストの方、仕切っていただいて話を進めてください。よろしくお願いします。

【セッション3：20分のグループトーク】

割田：はい、ではそろそろお時間となりました。みなさん、ありがとうございます。盛り上がっている皆さんを見て、笑顔で話をさせていただく様子を見て、たくさんの気づきがあったのではないかと感じています。では、そんなみなさん、話をした内容を、ぜひ全体で共有したいと思っております。ぜひ、「これだけは皆さんに伝えたい」というようなものがありましたら、ぜひ思い切って発言していただきたいと思います。どなたかグループ、ございますか？
なんでもいいですよ。

グループ A

まずは、多文化共生を考える上で、周りの人が受け入れる体制を作ることが、入ってきた人に対する安心感を与えたりだとか、いいものを作るということを一つ、話しました。それから仕事や、そういう利害関係が絡んできてしまうと受け入れるところに心の壁ができやすいと思いますが、そうではなくて文化だったり、一緒に友達になったり、そういうところでは仲間になる、というか、心を通じ合わせるができるのではないかとこのころで、これからやっていきたいこととしては、受け入れる体制を作ってあげるといことと、多文化や、友達や、そういう部分での交流を増やしていくことがいいのかな。心の繋がりが、言葉の壁を越える機会であったり、実は制度もなかなか難しいところですが、変えていくきっかけにもなるのかなということ、話が出ました。

割田：はい、ありがとうございます。素晴らしい意見ですね。西之原さんの話にもありました。日本に来た頃、周りの人たちが、自分たちに興味を持ってもらったり、理解しようという環境があることによって、自分たちがそこでしっかり学ぼうとか、ここで生活、生きていくことこの覚悟みたいなものも生まれたのかなと。われわれはそういったところも、そういう環境というのも提供してあげると多分、変わってくるのかなと感じました。はい、ありがとうございます。では他に。ぜひ。

グループ B

私のグループは、授業料の問題から始まったのですが、どこの国であろうと、好き嫌いはある。その問題と人権の問題を一緒くたにしてはいけないのではないかと、というところがやっぱりスタートでした。で、その事実を知らない、歴史を知らない、制度を知らない。そういう問題がありますので、それを知るといいうことになること、そして知っている人はそれを伝えていくことが大事だということ、最終的に、言葉と心と制度を考えた時に、人権の問題というのを忘れてはいけないんだと。みんな大事ですが、制度を変えていく必要があって、そのためには自分が動く、というのが大事だろう、というのを若者が言ってくれていたのですが、それにあって、たまたまですが、前にいる二人が教員で、ちょうど学生さんもプロのカメラマンでもあって、言葉だけではなくて写真で訴えるということもとても大事だろう。というのも、写真にしか興味がなかった人も、それを通して人権の問題と多文化の問題に関心を向けてくれるのではないかと。同じようにスポーツを切り口にするとか、食べ物があってもいいのではないかと、とどんどん広がっていく

と思うので、自分たちがまず動くことが入り口になるのではないか、という話をしました。ありがとうございました。

割田：はい、ありがとうございました。素晴らしい意見ですね。「自分から動く。」今回のテーマはですね、「私をはじめ明日からの多文化」、明日から、始められますか？

グループ B：もう今日から。

割田：あ、今日から。今日から始めてください。ありがとうございます。私も少し後で写真撮らせてください。今回、この3つのキーワードを関連づけて可視化していただきました。わかりやすいもの、ありがとうございました。はい、では、他にご意見……。あ、はい。

グループ C：

私たちの中では、在日の人のお話をはじめて直接聞いたという方がいらっしゃいまして、あまり普段接点がないということで、この接点がないと、何かよくわからなくて偏見を抱いてしまうことがあるので、接点を作っていくということが大事だね、という話ができました。そして、接点というのは作らないとダメ。お互いに努力して作っていくのが大事、というのが出ました。

それから、サイさんのストレス、という言葉で、なんか「ストレスって何？」と聞いてもあまりきちんとした説明をできる人がいなかったりすることから、私たちの中には、漠然として、言葉を使っている人が結構多いのではないかと、きちんと背景をしっかりと考えずに、言葉で分かった気になってしまい、それが広がっていくようなことが多くあるのではないかと。そういう場合は、共生というのは難しいということで、まずはお互いを知る、もう少し言葉の背景をみんなで考えてみる、そういう努力があってこそ共生が成り立つのではないかとという意見が出ました。

それからお互いのコミュニティ、いろんな外国籍の方のコミュニティがありますが、日本側も、日本人も壁を作っているし、コミュニティ同士にも何か壁があるような気がするということで、なぜその壁があるのか、という話をしました。やはり、安心できる。壁の中にいると安心できると思うから、壁ができてしまう。では、それを壊していく、または風穴を開けていくにはどうしたらいいか、というのを話しました。そうしたら日本に暮らす人として、このようなフォーラムを、このフォーラムのような場を増やしていくことではないか。いろんな形で、フォーラムのような形ではなくても、展覧会のような絵を通じてもいいですし、音楽を通じてでもいいですが、人が出会って、接点を持って話し合う場がたくさんできれば、多文化共生も少しずつできてくるのではないかとという話になりました。

割田：はい、ありがとうございます。するどいですね。壁、ありますね、たしかにね。そして、風穴を開けるとおっしゃいましたが、このような場、みなさん、今回このような場に来ている人も風穴を開ける一つの手段と、みなさん、たぶん、いろんなことを学んだと思います。皆さんがこれから色々な場面で発信することによって、徐々に徐々に変わっていく可能性があるということですね。はい。ありがとうございました。そうですね、あとこれぞ、という方、発表したい方、いらっしゃいましたら挙手願います。はい。

グループ D：

北朝鮮について話したいのですが、ミサイル＝北朝鮮ではなく、国民と、権力を握っている人を区別する必要があると思います。みんなが悪いわけではなく、すごくいい人もたくさんいるので、その人たちを大事にしていかなければいけないと思います。そして、私たちには何が必要かということ、まず知識です。まず、知識と、行動力。いろいろなことを知らないで行動してしまうと、間違っただ道に進んでいってしまうかもしれないので、いろいろなことを知った上で行動したほうがいいのか、ということをお話しました。あと今日学んだことは、自分の国の文化と、母国語を忘れてはいけない、ということですね。私は日本生まれでスペイン語は、ペルーですが、スペイン語は話せるのですが、周りに同じような人たちでも話せない人がたくさんいるの

で、もしこの中にも、外国につながる人がいたら、自分の文化と母国語を大事にしてください。ありがとうございます。

割田：はい、ありがとうございました。持っているその能力、他の外国籍の方も使っていけるような、そんな風になれるといいなと思いました。では、最後にもう1グループ。はい、どうぞ。

グループ E：

先ほどグループ C で進撃の巨人の話があったと思うのですが・・・あ、通じないでしょうか？壁の話ですよね・私はワンピースの話をしたと思います。僕の近くで、海賊王になるぞ、という若い、野望を持った子がいます。「おれは県知事になるぞ」と。今日の話を通じて、そういう話をしているので、ぜひ、少しこの若い子に話を聞きたいなと。

グループ E の若者：今日の感想になってしまうのですが、子どもの教育の機会というのを外国人の方も得ることが大事だなと感じていて、地域でボランティアなどで寺子屋のような形で子どもの日本語の学習を受けたり、それに限らず、大人の方も結婚されてこちらにいる方などにも、県とか市で学習できる場があるというのをそもそも知らないという話もお伺いしましたので、そのような存在を知るところから、どのような広報をしているのか、どのように伝えていくのか、これから大事になっていくのではないかと感じました。

割田：ありがとうございました。そうしましたら、みなさん、たくさんの意見が出ました。それぞれ今日得られた新しい情報、そういうものを持ち帰っていただいて、明日から、今日から、実践していただければと思います。では、最後に、前にいらっしゃるゲストスピーカーの方から一言ずつコメントをいただきまして、終わりにしたいと思います。では、西之原さん、よろしくお願いします。

西之原：言いたいことがいっぱいあるのですが、まず、今日はここに来て、個別にいろいろな方と話をすることができて、とても良かったと思います。これから、本当にさっき言ったように、自分の母国語を忘れず、文化も知って、いろんな文化がありますが、みんなで親切に笑う、あるいは顔だけでもわかるので、親切にすることが一番大事だと思っています。言葉が通じなくても、笑顔でいてくれれば、受け取る方が安心して「日本に来てよかったな」と思えるようになってくれると思います。ありがとうございました。

金：今日はお越しいただきまして本当にありがとうございます。今日の機会を与えていただいて、普段考えないようなことも自分自身で色々考えたりもして、また、多文化共生とは何なのかというところも、なかなか考え付かないところを色々学ばせていただきました。僕の話聞いて、「(在日コリアンの話を)初めて聞いた」という方もいらっしゃったようなので、うれしかったです。またこのような機会がありましたら、お会いできたらと思います。本日はありがとうございました。

サワドゴ：本日は、本当にありがとうございました。二人が大事なことをおっしゃってしまったので、もう何も言うことがないのですが、やはりこのような機会があると、いろいろ学ぶことができました。それで、言いたいことがありますが、たぶん1年に1回このような機会があると思いますが、もしできれば、2年に3回とかできなくても・・・1年に2回とか、行ったら、多分、もっといいと思います。みんなと繋がって、友好関係も深まっていくと思うので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

割田：お三方ありがとうございました。それでは、みなさん本日は2時間半という長いお時間でしたが、いかがだったでしょうか？楽しかった？とても貴重なお時間になったのではないかと思います。

います。私自身も、先ほどもお伝えしましたが、群馬県高崎市で外国人技能実習生という事業に関わっております。そこでベトナム語の通訳もしています。今回、いろいろと学びがありました。その一つが、西之原さんもおっしゃっていた、通訳。通訳というのは、言葉を訳すのではなく、やはり心、気持ちを伝えるということが必要だ、というところで、私自身も通訳して来ました。明日から、今日から、実践していきたいと思います。みなさんも気づきがあったかと思えます。ぜひその気づきをきっかけにして、行動に移せるようにしていただけると、今回のフォーラム、非常に意義があったのではないかと感じます。最後まで本当にありがとうございました。また、みなさんゲストスピーカーに大きな拍手をお願いいたします。今回、長い時間、今日のために本当に大変な思いをして来た企画委員、前にいらっしやる司会の方も含め、企画委員のみなさんにも、大きな拍手をよろしくをお願いいたします。はい、では司会のお二人にお戻しします。

飯島：はい、それでは今日ここに参加して下さったみなさんに、大きな拍手をお願いいたします。本当に、みなさんが今日ここで普段はない交流を通して、自分の中や、他の人と、どのように違うのか、そのようなことを感じていただけて、それで世の中を見る目が少しでも変わったら、フォーラムを企画してすごくよかったなと思います。本当にありがとうございました。

盧：何か一つでもいいので、やっていけたら、この神奈川県、日本は変わっていけると思うので、頑張っていきましょう。

飯島：本日は長時間にわたり本当にありがとうございました。これをもちまして本日のプログラムを終了とさせていただきます。

盧：終わる前に何点かございます。明日もあーすフェスタにて様々なイベントが行われます。フォーラム部会としては、明日は二つのイベントがあります。午前中 10 時から 12 時まで、外国につながるティーンたちが自分の思いを写真とともに語るティーンズフォーラム。午後は 1 時半から 16 時まで、頑固な職人と言葉のわからない韓国から来た女の子の心の交流を描いた「つむぐもの」の上映会と、監督のトークショーを実施する予定です。他にも、様々なイベントがありますので、よろしければぜひ参加ください。よろしくお願ひします。

飯島：今日のこの話を踏まえて明日来ると、きっといろいろな発見があると思うので、お時間がある方はぜひ。それともう一点、最後にお願ひがあるのですが、今日この企画、フォーラムがどうだったかというのを、お手元の黄色い紙、アンケートがありますのでよろしかったら、ぜひ書いてください。本当は一人一人に話して聞きたいくらいなのですが、とてもかなわないので、ぜひ何か一言いただけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願ひします。では、二時間半にわたって本当にありがとうございました。アンケートをご記入なさって、お忘れ物のないようにお帰り下さい。では、これで閉会とさせていただきます。

盧：ありがとうございました。